木浦〈モッポ〉は港だ

2005(平成17)年７月８日鑑賞〈ホクテンザ１〉　★★★★

監督＝キム・ジフン／出演＝チョ・ジェヒョン／チャ・インピョ／ソン・ソンミ／ソン・ビョンホ（エスピーオー配給／2004年韓国映画／111分）

……マフィアへの潜入モノ（？）は『インファナル・アフェア』３部作が有名だが、おっとどっこい、そればかりではない！　韓国南端の港町木浦（モッポ）を舞台に、潜入刑事とヤクザのボスの２人を中心として展開される物語は、コメディタッチをうまく折り込みながら、対決あり、騙しあり、友情ありの面白いもの。ヨン様やイ・ビョンホンを超える美男俳優の魅力と実力派俳優の迫力ある演技を大いに楽しもう！

『インファナル・アフェア』だけではない！

最近の香港映画最大のヒット作が『インファナル・アフェア』３部作。これはマフィア組織に潜入した捜査官と、逆に警察組織に潜入したマフィアの組員の２人を主人公とし、警察とマフィアとの攻防戦を描いたスリル溢れる物語。このように、『インファナル・アフェア』は警察とマフィア双方からの「潜入」がミソだから、当然警察とマフィア双方のボスが登場し、その内部の権力抗争もあるので、登場人物が多くなる。

そして物語が複雑に絡み合っているため、面白いことはまちがいないがストーリーを理解するのは容易ではない。

しかし、この『木浦は港だ』はヤクザ組織に潜入した主人公イ・スチョル（チョ・ジェヒョン）とヤクザのボス、ペク・ソンギ（チャ・インピョ）の２人が主人公だから、シンプルでわかりやすい。これぞ潜入モノの一番手……？

木浦は港町

私が2泊3日の釜山旅行に出かけたのは、1996年6月28日～30日。ゴルフと食事その他のお遊びだけで観光は全くなしだったが、ホテルから海岸までは歩いて5分程の近さ。その海岸には屋台がズラリと並び、そりゃ壮観。商店街を歩いても、そこで売っているのは海産物ばかりで、韓国第2の都市釜山はまさに港町だと感心したもの。

この映画の舞台である木浦は朝鮮半島南端にある港町とのこと。この木浦という名前は、その町の名前をテーマにした韓国の歌があるのでよく知っていたが、具体的なイメージはもちろんない。しかしこの映画を観ていると、まさに港町そのもの。そしてヤクザのボス、ソンギが、いかにこの木浦の町を愛しているかがよくわかる。

潜入刑事とヤクザのボスの2人を主人公にした、波瀾万丈の物語であるにもかかわらず、『木浦は港だ』などというタイトルは一見いかにもお門違いのように思えるが、意外とそうではなく、ピッタリのタイトルだと感心……？

潜入捜査とは？

この映画では潜入捜査がユーモラス（？）に描かれるが、その実態は『インファナル・アフェア』に描かれているように、過酷なもの。周りの人たち全てを騙して生きているうちに、誰も信用できなくなり、ついには自分が何者かわからなくなることも……？

そんな過酷な潜入捜査はもちろん危険を伴うもので、麻薬取引摘発のためなど、ごく例外的な分野にのみ使われる手段。そんな危険な潜入捜査を提案したのは、検察庁の麻薬取締担当の美人検事のイム・ジャギョン（ソン・ソンミ）。いくら志願とはいえ、殺人課の刑事が麻薬摘発のために潜入捜査の役目に就くというのは、ありえない話だが、まあ映画だからそれは大目にみておこう……。

潜入刑事の実力は？

ソウル警察の殺人課にいるのだから、スチョルはそれなりの能力を持った刑事

のはずだが、達者なのは理論と口だけで、現場ではからっきしダメ。コソ泥１人も逮捕できず、失敗する始末だから、「イザ現場へ急行！」となるとスチョルだけが外されてデスクに縛りつけられることも。しかしなぜかこのスチョルはボクシングだけは多少できる……？

こんなスチョルが木浦のヤクザ組織への潜入捜査に自ら志願……。

ヤクザのボスは超美形！

地方都市、港のまち、木浦を仕切っているヤクザのボス、ソンギは若いが腕と度胸は超一流。自力でメキメキとのし上がってきた本格派ヤクザだ。そのうえ、義侠心に厚く、木浦の町を心から愛している結構いい男。さらに背が高く、顔立ちは超ハンサム。

こんなボスの趣味は意外にも映画で、夜は１人ホームシアターを楽しむのが日課となっていた。何か社会の役に立つことをしたいと考えていたそんなソンギが、組織ナンバー２のドゥホ（ソン・ビョンホ）に勧められてオーケーしたのは、海に沈む船の引き揚げ。

この船には金銀財宝の山が積まれていると噂されていたから、その引き揚げが成功すれば……？

潜入できたものの……？

スチョルは腕っぷしはまだまだだが、知恵と口は一流。そのため、ヤクザ組織への潜入なんてチョロイものと思っていたが、実際は潜入するだけでもひと苦労。さまざまな策をめぐらし、やっとの思いで潜入に成功したものの、ボスの持つ情報に近づくためにはボスと親しく接する必要がある。しかしヤクザ社会も所詮身分社会だから、下っ端の組員になってもボスと直接口をきくなんてことは夢のまた夢……。

そんなスチョルに千載一遇のチャンスがやってきたのは、彼が得意とする（？）ボクシングの試合に出場して闘うことによって、広く市民にソンギの引揚船事業をアピールすること。さてその試合でスチョルは……？

男の友情はホントにいいもの……？

この映画はホントは深刻な潜入捜査官とヤクザのボスとの闘いがテーマだが、それをいかにも韓国的な喜劇風に面白く仕上げている。その中で一本筋を通しているのが、スチョルとソンギとの間の男の友情……？　ドンドンとのし上がり、今やソンギの片腕的存在となったスチョルは、かなり質の高い情報を集めることができる立場になったが、そんな中、スチョルの警察官としての立場はかなり微妙なものに……？

さらにソンギの恋のキューピット役までつとめることになったスチョルは、一層ソンギに重用されたから、これを快く思わない組織のナンバー２であるドゥホはある秘策を……。

事態が緊迫していく中、スチョルとソンギの友情は……？　そして、潜入捜査官とヤクザのボスという根本的矛盾の解決は……？　この映画を観ていると、男の友情ってホントにいいものだと実感！

ヤクザの組長と女検事との恋の行方は？

スチョルは潜入捜査官だから、当然コトあるごとにジャギョン検事に報告を入れていた。ところが間の悪いことに、スチョルとジャギョン検事が秘かに会っているところをソンギが発見！「こりゃヤバい！」と思ったスチョルとジャギョンがとっさにとった行動は、「僕の妹を紹介します」というもの。こんな見えすいた芝居で騙されるようなヤクザのボスは普通いないはずだが、そこは映画だから何でもあり……？　なんとこの美人の妹にソンギが一目惚れ……。以降スチョルはソンギの恋のキューピットの役目も……？　さて、このヤクザの組長と女検事との恋の行方は……？

2005(平成17)年７月11日記